



聖路加

チャペル ニュース

2022年6月26日 No. 266



〒104-0044

東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416

TEL 5550-7043

FAX 5550-7070

E-mail: chapel@luke.ac.jp

URL: [http://nssk.org/
tokyo/church/luke](http://nssk.org/tokyo/church/luke)



東京教区合同堅信式における堅信受領者と教父母 6月4日 聖アンデレ主教座聖堂にて

聖書に学ぶ会

リモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

「見ないで信じる人は、
幸いである」(ヨハネ福音書20:9)

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル
感染予防対策のため予約制で行います

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

巻頭メッセージ

「見ないで信じる人は、幸いである」(ヨネ福音書二〇：九)

司祭 バルナバ 関 正勝

イエスの弟子たちは彼が十字架につけられ、亡くなったとき深い悲しみと絶望の淵に立たされていました。その姿が聖書には「弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸には皆鍵をかけていた」と伝えられています。彼らはイエスに出会って新しい生き方を知らされて希望を抱き、勇気をもつて歩み始めていました。そのイエスを死へと追いやった世界の残酷で無機質、無関心を装う社会を彼らは恐れないではおれませんでした。やがてその世界は彼ら自身自身にも迫害の手を伸ばして来るであろうことを恐れて、自分たちの家のあらゆる戸の鍵をかけてひっそりと生活しています。その彼らに復活されたイエスが、その戸を打ち破るよううにして彼らの真ん中に立ち、「罪の赦し」の権能と「平和」をもたらす使命を与えています。疑うトマスに向かつては「見ないで信じる人は、幸いである」と語られます。

「見る」ことに躓き、「信じる者」へと新しくされて行きました。現代の私たちは「見る」ことに重点を置きがちです。その世界には大きな落とし穴があるように思います。それは「見えない世界」を無視し、排除し、否定しがちです。「見えている世界」は実はほんの一部でしかないのに、その世界を「すべて」としてしまうことで、実は現代のハラスメントの原因がありはしないでしょうか。「見えている」と思える、その一部分を捕らえて相手を理解したと錯覚して相手を所有してしまう、それを愛だと錯覚してしまう。「見える」世界はまだ「見えていない世界」があることを不問にしてしまいがちです。ヨブは自分と世界が直面している苦しみや不条理に直面して、神に激しく問いかけています。しかし神はヨブの未だ見えていない世界を語って彼の無知と高慢を問い詰めています。

今、教会は復活祭から聖霊降臨日に至る歩みの中で「キリストを見たことがないのに愛しており、今見てはいないのに信じており、言葉に尽くせない素晴らしい喜びに溢れています」(一ペトロ一：八)。

イエスの直弟子たちはイエスを見て知っていました。しかし、果たしてイエスを全く信じ切れていたでしょうか。弟子の代表格のペトロでさえ、審判の場で「その人知らず」と三度まで否んでいます。彼ら弟子たちは